ISSB Update 2024 年 11 月

ISSB Update は、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）の予備的決定を示している。これらの決定の影響を受けるプロジェクトは、作業計画で見ることができる。IFRS®サステナビリティ開示基準に関する ISSB の最終的な決定は、IFRS 財団の「デュー・プロセス・ハンドブック」に示されているとおり正式に書面投票が行われる。

ISSB は、2024 年 11 月 20 日から 21 日にかけて会議を行った。

関連情報：

- 原文はこちら
- ISSB ボード会議の要約のオーディオ（ポッドキャスト）はこちら

目次

リサーチ及び基準設定

- 生物多様性、生態系及び生態系サービス（アジェンダ・ペーパー3）
- 人的資本（アジェンダ・ペーパー4）

基準の適用

- IFRS S1 号及び IFRS S2 号の導入（implementation）支援（アジェンダ・ペーパー9）

リサーチ及び基準設定

生物多様性、生態系及び生態系サービス（アジェンダ・ペーパー3）

ISSB は、2024 年 11 月 21 日に会議を行い、このリサーチ・プロジェクトに関するアップデートを受けた。アップデートは、次に関連する ISSB スタッフの予備的な調査結果を対象としていた。

- 生物多様性、生態系及び生態系サービス関連のリスク及び機会に関する情報に対する投資家の関心のエビデンス
- これらのリスク及び機会が企業の見通しにどのように影響を与えるか（affect）についてのエビデンス
- 他の開示基準及びフレームワーク

ISSB は何も決定を求められなかった。

次のステップ

ISSB は、このリサーチ・プロジェクトに関するさらなるアップデートを受ける予定である。

人的資本（アジェンダ・ペーパー4）

ISSB は、2024 年 11 月 20 日に会議を行い、このリサーチ・プロジェクトに関するアップデートを受けた。アップデートは、他の開示基準及びフレームワークに関連する ISSB スタッフの予備的な調査結果を対象としていた。

ISSB は何も決定を求められなかった。

次のステップ

ISSB は、今後数か月の間に、このリサーチ・プロジェクトに関する追加的なアップデートを受ける予定である。

基準の適用

IFRS S1 号及び IFRS S2 号の導入（implementation）支援（アジェンダ・ペーパー9）

ISSB は、2024 年 11 月 20 日に会議を行い、IFRS S1 号「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的要求事項」及び IFRS S2 号「気候関連開示」の導入（implementation）支援について議論した。

IFRS S1 号又は IFRS S2 号を修正することの影響（implication）—リスク及び便益（アジェンダ・ペーパー 9A）

ISSB は、導入（implementation）から生じる適用上の課題に関する利害関係者のフィードバックに対応して IFRS S1 号又は IFRS S2 号を修正することの影響（implication）について議論した。

ISSB は何も決定を求められなかった。

IFRS S1 号又は IFRS S2 号の潜在的な修正の評価のための規準（アジェンダ・ペーパー 9B）

ISSB は、導入（implementation）から生じる適用上の課題に関する利害関係者のフィードバックに対応して IFRS S1 号又は IFRS S2 号の潜在的な修正の評価のための規準について議論した。ISSB は、潜在的な修正は、次のとおりであることを決定した。

a. 他のすべての選択肢を探究した後に、導入（implementation）から生じる広範な適用上の課題（実務上の多様性に関連する懸念を含む。）に対応する明らかなニーズを ISSB が識別する場合にのみ検討される。

b. 有用な情報の著しい（significant）喪失（IFRS S1 号及び IFRS S2 号において公表されている要求事項を企業が適用することによって提供されるものと比較して、有用なサステナビリティ関連財務情報の質的特性の著しい（significant）低減を含む。）をもたらさない。

c. IFRS S1 号及び IFRS S2 号について、企業の導入プロセス又は法域の採用（adopting）若しくは使用プロセスを過度に（unduly）混乱させない（disrupt）。ISSB は、修正の必要性と修正することで引き起こす可能性がある潜在的な混乱とのバランスをとることになる。ISSB は、公表されている要求事項と比較して、次の修正を避けるよう努めることになる。

   i. 「IFRS サステナビリティ開示基準」と、「欧州サステナビリティ報告基準」又は「GRI スタンダード」のいずれかとの間の相互運用可能性を低減させる。

   ii. 「IFRS サステナビリティ開示基準」と「IFRS 会計基準」との間のコネクティビティを低減させる。

   iii. IFRS S1 号又は IFRS S2 号における要求事項の適用の複雑性を増加させ、基準のプロポーショナリティを低減させる。

ISSB は、基準の修正を提案するかどうかを評価するため、これらの規準を使用することになる。しかし、ISSB は、修正を提案するかどうか、及び修正をどのように提案するかにおいて、他の関連する要素も考慮することになる。

14 名の ISSB メンバー全員が、この決定に同意した。

2024 年 9 月 19 日に開催された IFRS S1 号及び IFRS S2 号に関する「移行支援グループ」の会議の要約（アジェンダ・ペーパー 9C）

ISSB は、IFRS S1 号及び IFRS S2 号に関する「移行支援グループ」（TIG）の 2024 年 9 月の会議に関するアップデートを受けた。

ISSB は何も決定を求められなかった。

IFRS S2 号に関連する導入（implementation）上の課題及び懸念（アジェンダ･ペーパー 9D）

ISSB は、2024 年 9 月の TIG 会議で議論された IFRS S2 号の導入（implementation）から生じる適用上の課題の概要を受け取った。スタッフは、さらなる検討のため、ISSB にこれらの課題を付託した。ISSB は、これらの課題に対応するために検討する可能性のある潜在的な修正について議論した。

ISSB は何も決定を求められなかった。

次のステップ

ISSB は、潜在的な修正及び導入（implementation）から生じるこれらの適用上の課題にどのように対応するかについて、さらに検討する予定である。